

神戸学院大学有瀬図書館
2020年2月18日発行

Meridian

展示会通信第58号

第51回有瀬図書館ギャラリー展

公演パンフレットで振り返る 中国演劇40年



2020年2月1日(土)～2020年2月29日(土)

開催場所：神戸学院大学有瀬図書館
本館2階 エントランス展示コーナー

* 開催時間や開催期間は変更になることがあります。図書館HP・掲示にて、ご確認のうえご来館ください。

伊藤茂先生と中国演劇との出会いは、1979年12月に「人形劇・児童劇友好訪中団」の一員として初訪中したことから始まります。以後毎年のように中国で観劇され、訪中は約40年間で60回を超えました。今回の展示では伊藤茂先生が収集された、1980年代から現在までの各時期の公演パンフレットを通じて中国演劇の40年を回顧します。

初訪中と昆劇との出会い

伊藤茂先生は1979年の初訪中で、江蘇省揚州市（鑑真和上の出身地）の人形劇『火焰山—三借芭蕉扇』（『西遊記』の一節）を観劇されます。その力強く、的確な技術と、千人の大人で満席の客席の反応などが特に印象的でした。1983年には昆劇を観るツアーに参加され、南京で観劇した名優張継青氏の舞台を通じて中国演劇の真髄、本物に触れました。



『火焰山—三借芭蕉扇』パンフレット



張継青氏のサイン入りパンフレット

越劇との出会い

伊藤茂先生が新劇、昆劇、京劇以外によく観劇されたのが、浙江省の地方劇「越劇」（中国版タカラヅカ）です。演出家楊小青氏や浙江省各地の越劇団の女優を本学に招聘されています。歴史書『漢書』の著者班固の娘である班昭の生涯を描いた越劇版と昆劇版の『班昭』に関しては、論考も発表されています。



地方劇「越劇」パンフレット



『班昭』パンフレット



神戸学院大学とやかりの演劇人たち

伊藤茂先生は1988年に始まった本学主催の芸術公演「グリーンフェスティバル」で多くの中国演劇関連の公演をプロデュースされてきました。現在上海の演劇界の核となっている劇作家喻榮軍氏、京劇界を牽引する俳優の巖慶谷氏、史敏(史依泓)氏とは20年以上の交流があります。巖慶谷氏が本学外国人研究員であった際は指導教員をつとめられました。



喻榮軍氏 パンフレット

新劇『茶館』



『茶館』パンフレット

伊藤茂先生が最も足繁く通った中国の劇場といえば、北京の首都劇場と上海の逸夫舞台ではないでしょうか。このうち、首都劇場は「北京人民芸術劇院」の本拠地であり、同劇院の代表作が『茶館』(老舍作、1958年初演)です。伊藤茂先生のコレクションの中でも同一演目で最も多くのバージョンのパンフレットがあるのが『茶館』です。

各時期、各地の公演チケット

伊藤茂先生は観劇された公演パンフレット以外に、公演チケットも一部所蔵されています。北京と上海の各劇場が圧倒的に多いですが、台北や杭州の劇場のものもあります。時期も1980年代から2010年代までさまざま、時代や地域性の違いがよく分かる貴重なものです。



各地の公演チケット

展示の様子



伊藤茂先生の著書も
展示しています。

編集後記

今回のギャラリー展は、グローバル・コミュニケーション学部森平先生による企画展示の第2弾でした。

人文学部伊藤茂先生のご退職を記念して、伊藤先生が40年以上に渡って収集された中国演劇のチケットやパンフレットのコレクションの一部を展示しています。

どれも普段みることのできない貴重な資料ですので、ぜひこの機会にご覧ください。

神戸学院大学図書館 展示会通信 MERIDIAN 第53号

2020年2月18日発行

発行・編集：神戸学院大学 有瀬図書館

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

TEL：078(974)4584

E-mail：pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp

ホームページURL：http://opac.kobegakuin.ac.jp/